「新潟市工之跡」碑保存について

発起人　中央区附船町１丁目住人　　岩間 正吉

昭和 40 年新潟市工卒業生　　加藤 功

【新潟市工之跡】発見の経緯

1, 令和 4 年 10 月 1 日新潟北部開発協議会 青年部ニュース「よみがえれ！わが町」231 号にて、下町の活力をつくった高校「新潟市立工業高等学校」と題し、旧北部コミュニティセンターの跡地が売却され、建物の解体が始まり、そこに【新潟市工之跡】と書かれた石碑が発見された記事が載っていた。添付の「よみがえれ！わが町」231 号を参照ください。

新潟北部開発協議会　青年部ニュース

よみがえれ！わが町

下町の活力をつくった高校

新潟市立工業高等学校

（旧北部コミュニティセンターの跡地は、旧市工の跡地です）

旧北部コミュニティセンターの跡地が売却され、新しい動きが始まりました。建物の解体が始動し、そこに【新潟市工の跡】と書かれた石碑を発見し、下町地区で唯一の高校が存在した事を示す証跡でした。

市工の始まりは、新潟市が昭13年に機械工養成所を設立して、市内の鉄工所に終了生を送り出していました。工業産業に力を入れた時代に新潟市立の工業学校を求める動きがありましたが、不況でもあり財政難で、見送られて来ました。

昭19年に新潟市鉄工組合が解散するので、その建物や機械器具を新潟市が譲り受けることが出来るようになりました。戦時中の物資が不足する中でしたが校舎の着工にこぎ着けました。しかし、文部省の認可が遅れて翌年昭20年3月に「新潟市立工業学校」として開校しました。

当所、生徒50名、教職員11名でスタート。終戦、戦後の混乱と厳しい時代にも生徒達は元気に成長し、昭23年には「新潟市立工業高等学校」と改称し、定時制課程も置かれ機械科2学級で発足。

昭24年、物資の不足はまだまだ続き、一般家庭でも配給生活も残り、この年生まれの母子手帳には、物ミルクや砂糖の配給の記録がありました。そんな中、国立倉庫を移転改装し体育館が出来ました。

昭25年、造船科を設置し「港町にいがた」らしい特色を出し、昭26年には「校歌」も出来上がりました。古村氏作詞の校舎・体育館でしたが、生徒達の意気はピカピカで、後の高度成長を支える熱意をつくり上げた学校だったと思われます。また、定時制の生徒が夜遅くまで勉強していた事は、町に元気を与え続けました。

地域と共に歩んで来た工業高校に子供達の目線からはとても興味深く、何でも出来るお兄さんのように映りました。

昭和62年4月1日創刊
No.231
令和4年10月1日

新潟北部開発協議会
編集責任者　青年部新聞班
事務局　新潟市中央区西堀通7町[illegible]
電話　229-8302

解体校舎の脇にあった石碑

（北部グランドでの運動会）

参考文献・新潟市立学校沿革略誌・新潟市史

※ 昭和 57 年新潟市立工業高等学校が閉校になり、その後北部コミュニティセンターが入所した。

2, この記事を読んだ地元・附船町住民の岩間正吉が、「下町の為にも、又子どもたちに伝える歴史としても、残しておいてもらえるとよい贈り物になるのではないか」と思い、昭和 40 年市工卒業生の加藤功に話し掛け、その碑の由来を二人で調べてみた。

解体前の旧北部コミュニティセンター

解体前の旧北部コミュニティセンター

解体中の旧北部コミュニティセンター

解体中の旧北部コミュニティセンター

3，調査として、現物は今ビル解体作業中の現場に寝かされていたので、現物からの情報は外観と寸法のみとなった。

建物を解体するため碑を寝かした

寝かされた閉校記念碑

場所位置図

本体と土台と脚部等がバラバラになり、横倒し状態で，設置現場に保存されている。
本体部、縦 102 ㎝、横 137 ㎝、幅 24 ㎝の花崗岩の中に、横 91 ㎝×縦 30 ㎝の記念文字「新潟市工之跡」刻印(おもて面)の黒御影石が埋め込まれている。(裏面も同様と思われるが倒れていて見えず不明)、本体の重さ推定 900Kg。
本体石と土台部は、四角い脚部花崗岩石二個で繋がれている。二個の脚部石の下も又花崗岩で、更にその下も花崗岩で、その下の地面に接するところはコンクリートとなっていて、石の接合方法は全て接着剤又はセメントの塗布のようであった。
尚、現在閉校記念碑は、寝かされた状態にあるため裏面については不明である。

その他◆「北部総合コミュニティセンター・創立五周年記念(碑)」や、入り口付近のコンクリートの R 字型門の裏側にはめ込まれている◆「昭和 38 年度卒業生寄贈」の記念碑が発見された。

入口のポールにあった記念碑

入口横にあった昭和 38 年卒業生寄贈碑

新潟市立工業高等学校の歴史

昭和 20 年 3 月　　文部省の認可を得て新潟市立工業高校として開校　生徒 50 名、教職員 11 名

（当時、新潟市鉄工組合から「本格的な技術教育をつけた人がほしい」ので、工業学校を創立してもらいたいという要望が市に出されていた。新潟市鉄工組合の解散により、その建物や機械器具を新潟市が譲り受けて開校）

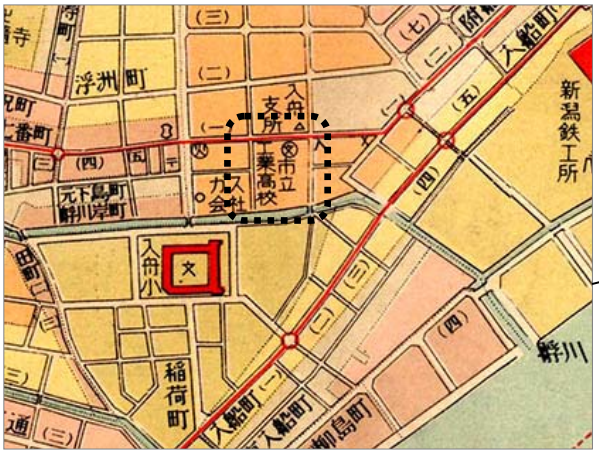
初代の校舎

〃　23 年 4 月　　新潟市立工業高等学校と改称し、定時制課程も設置

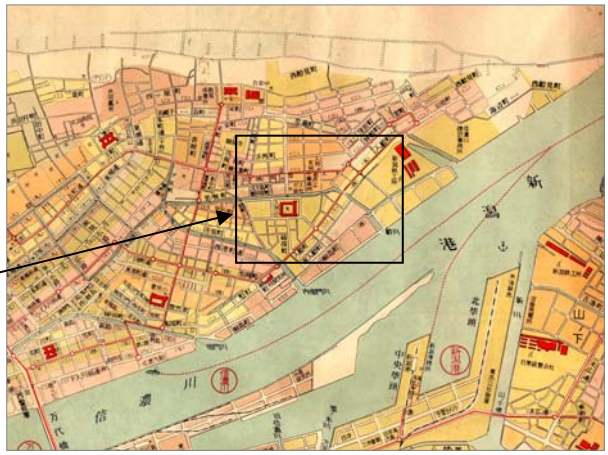
〃　24 年　　国立倉庫解体の用材を用いて体育館、普通教室を作る

〃　25 年　　国内唯一の造船科を新設　生徒 40 名

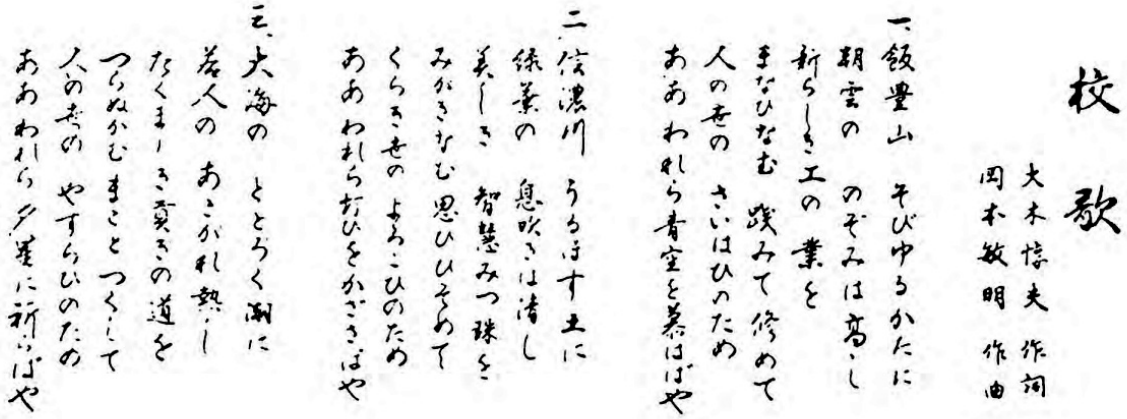
〃　26 年 3 月　　第一期卒業生　40 名



昭和 26 年市工付近の様子



昭和 26 年新潟市地図



校歌

大木悟夫 作詞
岡本敏明 作曲

一、飯豊山　そびゆるかたに
朝雲の　のぞみは高し
新らしき工の業を
まなびなむ　踐みて修めて
人の世の　さいはひのため
ああわれら青空を蒼はばや

二、信濃川　うちはす土に
緑葉の　息吹きは清し
美しき　智慧みつ珠を
みがきなむ思ひひそめて
くらき世の　よろこびのため
ああわれら灯をかざはばや

三、大海の　ととろく潮に
若人の　あこがれ熱し
たくましき男子の道を
つらぬかむ　まことつくして
人の世の　やすらひのため
ああわれら　光に祈はばや

新潟市工校歌

新潟市工校旗

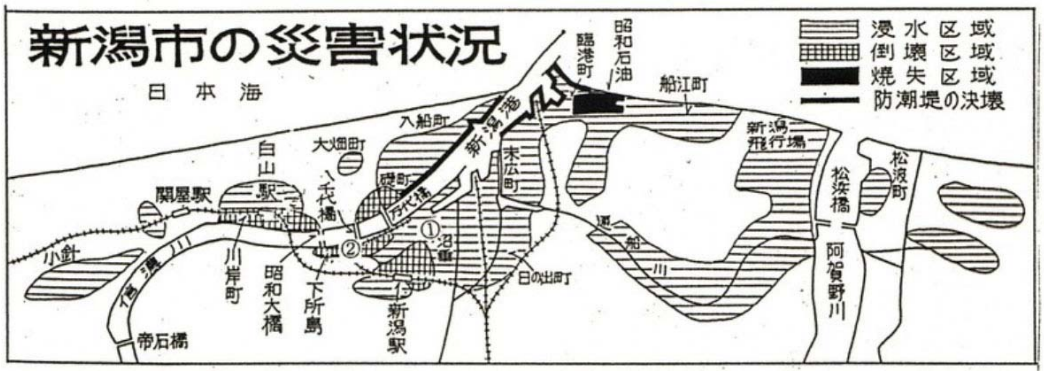
昭和 31 年　　機械科 1 学級増設
〃　〃　　第二代目磯貝校長により「校訓」が決まる
〃　32 年　　定時制に機械科 1 学級増設
〃　34 年　　電気科 1 学級新設
〃　36 年　　定時制に電気科 1 学級新設
〃　38 年　　改築校舎本館完成

昭和 58 年に完成した校舎

〃　39 年 6 月 16 日　新潟地震発生、津波と液状化により付近一帯床上浸水となる

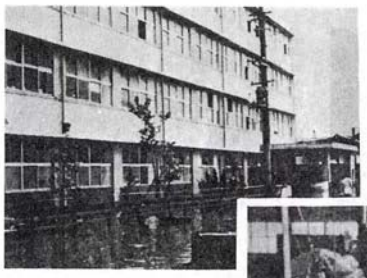
校舎前のバス通りは浸水

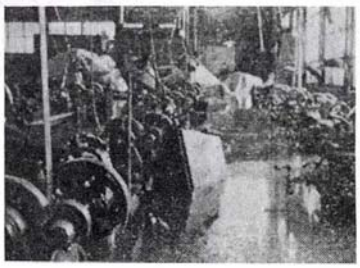
市工横の道路に架設の橋



昭和 39 年 6 月 16 日新潟地震災害状況

本館教室に避難された地区の被災者の方々

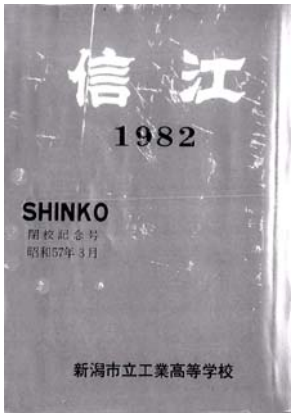

当日の本校正門前


機械実習工場(改築前)浸水

〃　39 年 6 月 30 日　　授業再開
〃　42 年 10 月　　新体育館完成
〃　44 年 9 月　　新校舎増設 1 期工事完成
〃　46 年 10 月　　創立 25 周年記念式典挙行

昭和 48 年 4 月　　新教育課程発足機械科 1 学級増設
〃　50 年 10 月　　創立 30 周年記念式典挙行
〃　52 年 10 月　　市立高等学校の将来計画について検討
〃　53 年 12 月　　市議会にて市立高等学校整備が決まる
〃　54 年 1 月　　市立高等学校施設整備連絡協議会発足
　　市立白山高校、市立工業高等学校の両校で検討
〃　54 年 9 月　　本校閉校準備委員会発足
〃　55 年 4 月　　新潟市立高志高等学校発足
〃　56 年 3 月　　定時制閉課程記念式挙行
〃　56 年 11 月　　閉校記念碑「新潟市工之跡」碑除幕式
〃　57 年 3 月 7 日　　最後の卒業証書授与式

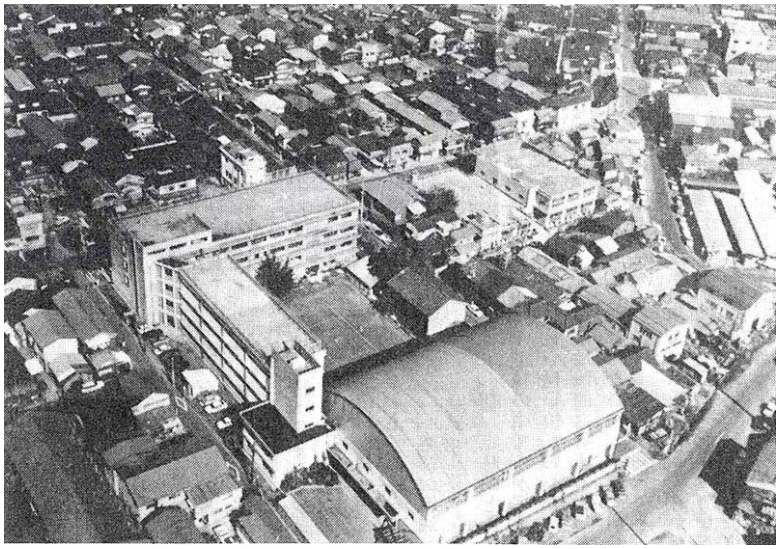
卒業生総数	6.956 名
全日制課程	4.982 名
機械科	2.957 名
電気科	1.462 名
造船科	563 名
定時制課程	1.974 名
機械科	1.323 名
普通科	258 名
電気科	393 名



昭和 57 年 3 月発行の閉校記念号

新潟市立工業高校閉校に当たり、「信江 1982 閉校記念号」昭和 57 年 3 月が 500 部発行された。

昭和 58 年 4 月　新潟市立工業高等学校の跡地に北部コミニテイーセンター入所
昭和 58 年 4 月　北部コミニティセンターオープンに伴い、本館 2F に舟江図書館移設オープン
令和元年 7 月 16 日　旧入舟小学校の跡地に北部コミニティセンターオープン
　　同日　　北部コミニティセンターオープンに伴い、本館 2F に舟江図書館移設


昭和 57 年空撮

新潟市立工業高等学校卒業生

★佐藤 忠男 文化功労者　1952 年、新潟市立工業高等学校卒業

日本の評論家、編集者。日本映画大学名誉学長、
日本映画学校校長、日本映画大学映画学部教授、日本映画大学学長などを歴任した。
アジア映画を中心として世界中の知られざる優れた現代映画を発掘・紹介し、映画界全体の発展に寄与した。
新潟市出身。小学校高等科を卒業、海軍の少年飛行兵として終戦を迎えた。
1952 年、新潟市立工業高等学校卒業。
戦後に見た米国映画の華やかで楽しげな世界に感動し、新潟市で電電公社などに勤務しながら、映画雑誌への評論の投稿を重ねた。注目されて上京し、雑誌「映画評論」「思想の科学」の編集長を務め評論活動を行う。
1973 年から、妻の佐藤久子と共同で個人雑誌『映画史研究』を編集・発行。
日本映画学校校長(1996 年～2011 年)、日本映画大学学長。
1989 年、第 7 回川喜多賞を妻の佐藤久子とともに受賞。1996 年、第 46 回芸術選奨文部大臣賞を受賞、同年春の褒章で紫綬褒章を受章。2002 年、春の叙勲で勲四等旭日小綬章を受章。その他に、王冠文化勲章（韓国）、レジオンドヌール勲章シュヴァリエ、芸術文化勲章シュヴァリエ（フランス）等を受章。2019 年、文化功労者。2022 年死去、91 歳。

★三輪 悟　1965 年、新潟市立工業高等学校卒業

プロ野球選手
市工では 3 年次の 1963 年エースとして、夏の甲子園県予選準決勝に進む。
卒業後の 1964 年に新潟市水道局へ入局し、軟式野球部でプレーを続けた。
1969 年ドラフト 2 位で西鉄ライオンズに指名され、1970 年に入団。
45 試合に登板して 7 勝 14 敗、リーグ 7 位の防御率 2.91 を記録した。
1975 年広島東洋カープへ移籍。同年は 22 回 2/3 イニング連続無失点のピッチングで、球団史上初のリーグ優勝に貢献。移籍後は全てリリーフで登板し、1980 年限りで現役を引退。
引退後は故郷新潟に U ターン、地元の特定非営利活動法人「新潟野球人」に参加し、少年野球の指導などを行っていた。
2015 年には新潟日報事業社から自叙伝「マウンド人生～絆つむいで」を出版。2021 年死去、75 歳。

★久仁 京介

社団法人日本作詩家協会副会長、日本音楽著作家連合文化事業委員会委員長、日本音楽著作権協会評議員。
新潟市内野出身、新潟市立工業高校を卒業。
1967 年、黒沢明とロス・プリモスの「東京ロマン」で作詞家デビュー。
第 48 回日本作詩大賞（2015 年テレビ東京）にて大賞を受賞した。
渥美二郎「おまえとしあわせに」「北のものがたり」
石川さゆり「好きだから」
五木ひろし「夢の浮き橋」「もう離さない」「燃える秋」「別れの匂い」
北島三郎「狼」「ひとすじ」「忠治流れ旅」「こぼれ紅」
島津亜矢「独楽」（※2015 年第 48 回日本作詩大賞・大賞受賞楽曲）
中村美律子「潮騒」「長良川鵜情」「つづれ織り」
新沼謙治「津軽恋女」
范文雀「あなたが憎めない」
日吉ミミ「男と女のお話」
福田こうへい「南部蝉しぐれ」「峠越え」
藤あや子「雨のものがたり」
森進一「わるいひと」「別れてあげる」「晩秋」
三山ひろし 「いごっそ魂」

★三林碩郎、第 86 代新潟県県会議議長歴任　2019 年死去、72 歳

★小嶋栄吉、日本労働組合総連合会新潟連合会議長歴任

【新潟市工之跡】保存方法について

1、その後の調査で、昭和 57 年(1982)新潟市学校統合方針により閉校し、白山高校と共に高志高校に統合され、同時期に閉校となった白山高校にも閉校記念碑が、りゅうとぴあの駐車場にある事が判明した。

閉校記念碑は高さ 1m、幅 2m、厚さ 30 ㎝で新潟市工の碑の大きさの 1.5 倍位か。表面は校歌一番が書いてあり、裏面には沿革が記載されていた。

りゅうとぴあの駐車場横にある白山高校閉校記念碑

白山高等学校跡
越路のみやこ
新潟の
みどりの森かげ
いや深く
其の名もゆかしき
白山の
名にこそ負へれ
わが母校

新潟市立白山
高等学校変革
昭和二十三年六月
定時制独立校発足
昭和三十八年四月
全日制課程併設
昭和四十五年四月
体育科設置
昭和五十六年三月
定時制課程
昭和五十七年三月
閉　校
卒業生総数五九五六名
寺島辰治書

白山高校閉校記念碑の表、裏の碑文

2、新新潟市立工業高等学校の閉校記念碑については、「信江 1982、閉校記念号・昭和 57 年 3 月」に、記念碑の大きさは、高さ 1.7m、横 1.5m、厚さ 0.5m、本体及び台は御影石、文字部は黒御影石。設置場所は「本校正面玄関脇の庭に建立」、碑文はシンプルに「新潟市工之跡」、裏面に校章、校名、校歌、沿革、卒業生数等を記すとあり。

書は大泉二郎氏(昭和 40 年定時制機械科卒)。

閉校記念誌に載っていた碑の写真

裏面　？

3、新潟市立工業高等学校は、下町唯一の高校として戦後の高度成長を支えてきた学校でした。また、昭和 39 年の新潟地震では、地域の方々の避難場所となりました。
その後の北部コミュニティセンターとなってからは、図書館として、地域の方々の運動場として下町に親しまれた施設でした。

4、閉校記念碑保存のお願い
この【新潟市工之跡】閉校記念碑、「北部総合コミュニティセンター・創立五周年記念(碑)」及び「昭和 38 年度卒業生寄贈」の記念碑は、「下町の為にも、又子どもたちに伝える歴史としても、残しておいてもらえるとよい贈り物になるので、今後出来る施設の一部に保存」をお願いするものです。

現在の記念碑はシートで覆われている

ほぼ校舎の解体の終わった現在

10 月 19 日、附船町町内の近藤 清会長さんへ、「同記念碑保存のお願い」を提出しご理解をいただきました。
また、新潟市中央区地域課にこの閉校記念碑について問合せと相談をした。
その後、幸いにも土地を購入した（株）ひらせいホームセンターの清水泰明社長様にお会いし、保存についてお話しした処、地元の社会貢献事業として保存へのご理解をいただきました。

昭和 30 年代の下の市工付近空撮

よみがえれ！わが町

下町の活力をつくった高校
新潟市立工業高等学校

〔旧北部コミュニティセンターの跡地は、旧市工の跡地です〕

旧北部コミュニティセンターの跡地が売却され、新しい動きが始まりました。建物の解体が始動し、そこに〔新潟市工の跡〕と書かれた石碑を発見し、下町地区で唯一の高校が存在した事を示す証概でした。

解体校舎の脇にあった石碑

市工の始まりは、新潟市が昭13年に機械工養成所を設立して、市内の鉄工所に終了生を送り出していました。工業産業に力を入れた時代に新潟市立の工業学校を求める動きがありましたが、不況でもあり財政難で、見送られて来ました。

昭19年に新潟市鉄工組合が解散するので、その建物や機械器具を新潟市が譲り受けることが出来るようになりました。戦時中の物資が不足する中でしたが校舎の着工にこぎ着けました。しかし、文部省の認可が遅れて翌年昭20年3月に〔新潟市立工業学校〕として開校しました。

当所、生徒50名、教職員11名でスタート。終戦・戦後の混乱と厳しい時代にも生徒達は元気に成長し、昭23年には〔新潟市立工業高等学校〕と改称し、定時制課程も置かれ機械科2学級で発足。

昭24年、物資の不足はまだまだ続き、一般家庭でも配給生活も残り、この年生まれの母子手帳には、粉ミルクや砂糖の配給の記録がありました。そんな中、国立倉庫を移転改装し体育館が出来ました。

昭25年、造船科を設置し「港町にいがた」らしい特色を出し、昭26年には「校歌」も出来上がりました。古材で作った校舎・体育館でしたが、生徒達の意気はピカピカで、後の高度成長を支える熱気をつくり上げた学校だったと思われます。また、定時制の生徒が夜遅くまで勉強していた姿は、町に元気を与え続けました。

地域と共に歩んで来た工業高校に子供達の目線からはとても興味深く、何でも出来るお兄さんのように映りました。旋盤・溶接の実習は、面白く中でも鋳造は、暗い所で赤い鉄が流れる様子は花火のようで見ていて飽きがきません。近くに行くと叱られますので遠くから覗いた事が思い出されます。また、自動車部という部活もあったそうで、轟音を鳴り響かせエンジンやフレーム、四輪の仕組みを探求する生徒達。時代をつくっていく人達だなあと思えました。

（北部グランドでの運動会）

昭34年には電気科も設置され昭38年には改築校舎が完成し、古材木造校舎から鉄筋校舎へと変わりました。

昭和30年代の生徒で電気科卒業の久保田光佳さんは「グランドがねかったっけ北部グランドで運動会をしてた。応援席のパネル作りでは、足場用の丸太を組んで立ち上げ本職並みに作り、応援用のスピーカーは本部より大音量のものを電気科の技術で付けてやったよ」「在校生も県内各地から集まり活気にあふれ、遠くは津川からも通っていたなあ」昭和の活気ある下町を作り上げ、地域産業の技術者を育て人づくりを担った高校は昭57年に白山高校と統合し、後、高志高校として移転。思い出を託しました。

昭和62年4月1日創刊
No.231
令和4年10月1日

新潟北部開発協議会
編集責任者　青年部新聞班
事務局　新潟市中央区西湊町通三ノ町三三〇〇-三
電話　229-8302

参考文献・新潟市立学校草略誌・新潟市史